



平成 31 年 1 月 31 日

会 社 名 株式会社インターアクション  
代表者名 代表取締役会長兼社長 木地 英雄  
(コード番号 7725 東証第一部)

## アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催いたしました

当社は、平成 31 年 1 月 18 日(金)にアナリスト・機関投資家の皆様向けとして、平成 31 年 5 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたしました。

〈平成 31 年 1 月 18 日(金) 15:30~16:30〉

1. 平成 31 年 5 月期第 2 四半期業績サマリーについてのご説明  
(代表取締役会長兼社長 木地 英雄)
2. 平成 31 年 5 月期第 2 四半期決算詳細についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
3. 平成 31 年 5 月期第 2 四半期連結業績予想についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
4. 中期経営計画のご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
5. 質疑応答

ご説明内容及び質疑応答内容に関しましては、以下に添付しております資料をご参照下さい。

以上

お問い合わせ先：

神奈川県横浜市金沢区福浦 1-1 横浜金沢ハイテクセンター 14F

株式会社インターアクション 経営管理部 IR 担当 宛

TEL 045-788-8373 FAX 045-788-8371 Eメール：[ir@inter-action.co.jp](mailto:ir@inter-action.co.jp)

# 決算説明会

平成31年5月期(第27期)第2四半期  
(平成30年6月1日～平成30年11月30日)

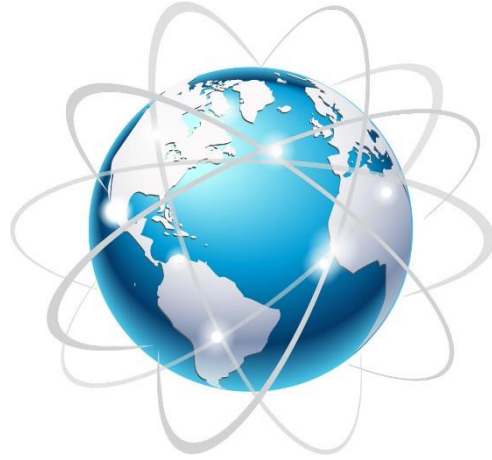


# 目次

1. 上半期サマリー
    - ① TOPICS
    - ② 業績サマリー
  2. 平成31年5月期第2四半期 決算詳細
    - ① IoT関連事業
    - ② 環境エネルギー事業
    - ③ インダストリー4.0推進事業
    - ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
    - ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
    - ⑥ 受注高・売上高・受注残高
  3. 平成31年5月期 通期連結業績予想
- appendix - 会社紹介 -

# 1. 上半期サマリー

## ① TOPICS



### 週刊東洋経済 半導体関連 増益企業ランキングの4位に ランクイン (2018年6月)

週刊東洋経済 2018年6/30号に掲載、『会社四季報』で発掘！市場拡大の波に乗る半導体&電池銘柄（半導体）増益企業ランキング55 / （電池）独自選定電池銘柄において、半導体関連増益企業ランキングの4位にランクインしました

### 海外投資家の評価が高まった企業ラン キング8位にランクイン(2018年8月)

NEXT1000※を対象とした、海外投資家の評価が高まった企業ランキング（3年間の外国人持ち株比率の増加幅ランキング）において、株式会社インターアクションが8位にランクインしました

※ 日本経済新聞が定める、日本経済のけん引役として期待される売上高100億円以下の上場企業約965社

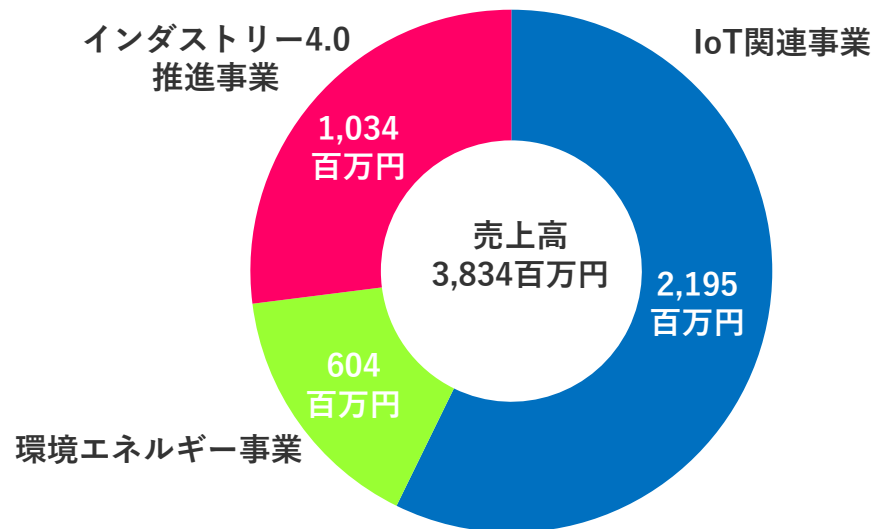


### 書籍『四畳半から東証一部上場へ』が Amazonの株式公開のカテゴリーで 1位獲得(2018年11月)

当社代表取締役会長兼社長 木地英雄の著書がAmazonの株式公開カテゴリーで ベストセラー1位となりました

## ② 業績サマリー

- ▶ IoT関連事業セグメントにおいて、スマートフォンの出荷台数が横ばい傾向にある一方で、複数台のカメラを搭載したモデルが登場し始めており、スマートフォンカメラ向けイメージセンサを生産しているメーカーの設備投資意欲が高く好調を推移した
- ▶ 環境エネルギー事業セグメントでは、印刷機業界において、ITの普及により新規の設備投資は縮小しているものの、引き続き印刷機器の定期的な買換え及びメンテナンス需要が存在する
- ▶ インダストリー4.0推進事業セグメントのフラットパネル・有機ELディスプレイ業界では、引き続き設備投資が落ち着いた状況が続いた



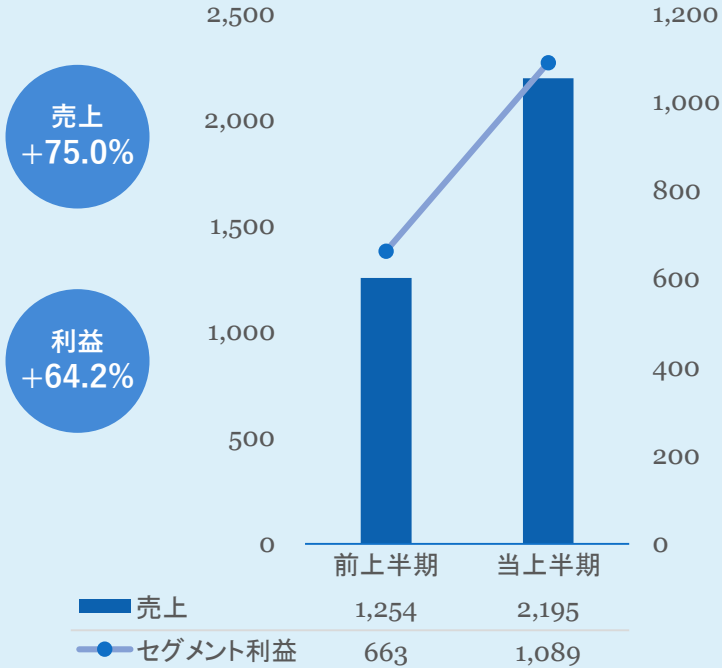
(百万円)	前第2四半期	当第2四半期	前年比増減率
売上高	2,592	<b>3,834</b>	<b>47.9%</b>
営業利益	325	<b>863</b>	<b>165.8%</b>
経常利益	319	<b>843</b>	<b>164.2%</b>
親会社株主に帰属する 四半期純利益	168	<b>560</b>	<b>233.2%</b>
1株当たり四半期純利益	17.75円	<b>58.97円</b>	-

## 2. 平成31年5月期第2四半期 決算詳細

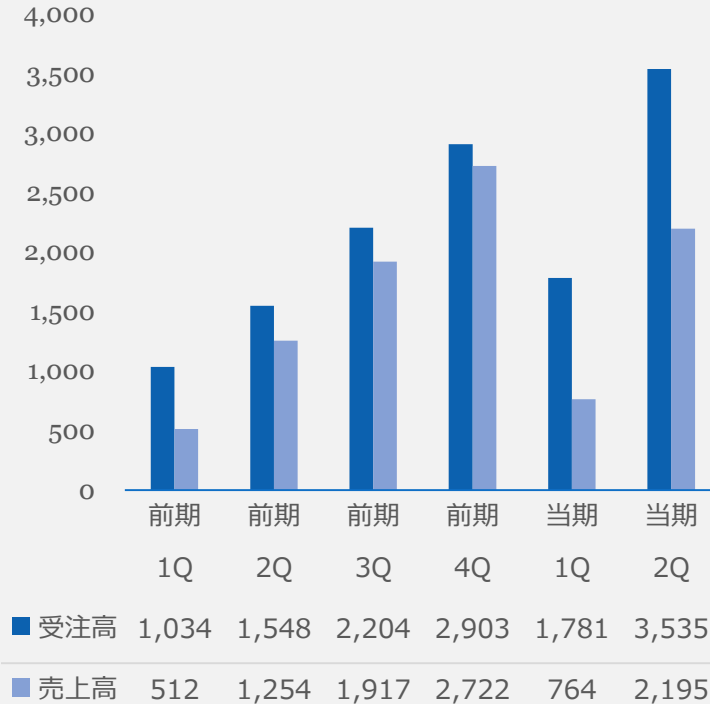
# ① IoT関連事業

▶ 半導体メーカーにおいて、今後のイメージセンサ需要に備えた設備投資が引き続き活発に行われ、当社グループの主力製品であるCCD及びCMOSイメージセンサ向け検査用光源装置及び瞳モジュールの販売が好調に推移した

売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

単位：百万円

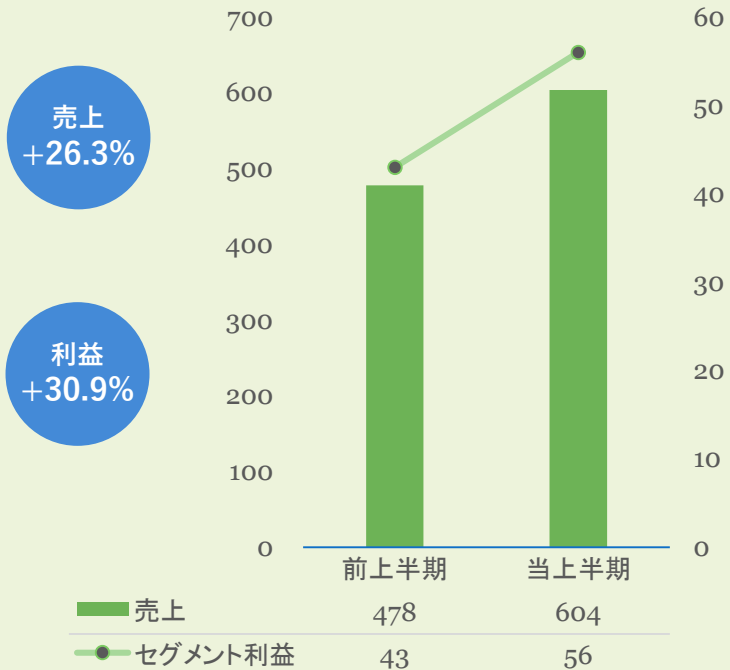
単位：百万円



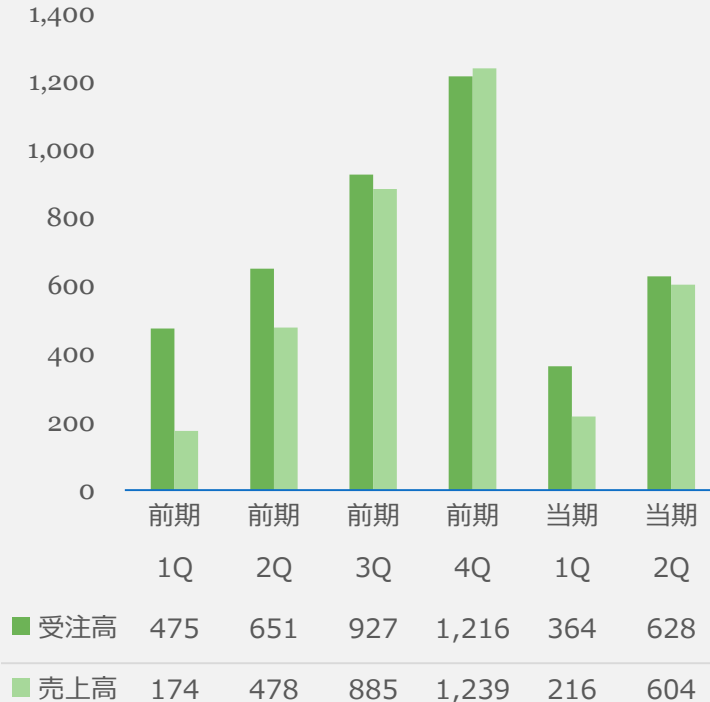
## ② 環境エネルギー事業

- 印刷機器メーカーの更新需要は落ち着いた状況となった
- メンテナンスサービスの提供に注力し売上高は低調に推移した

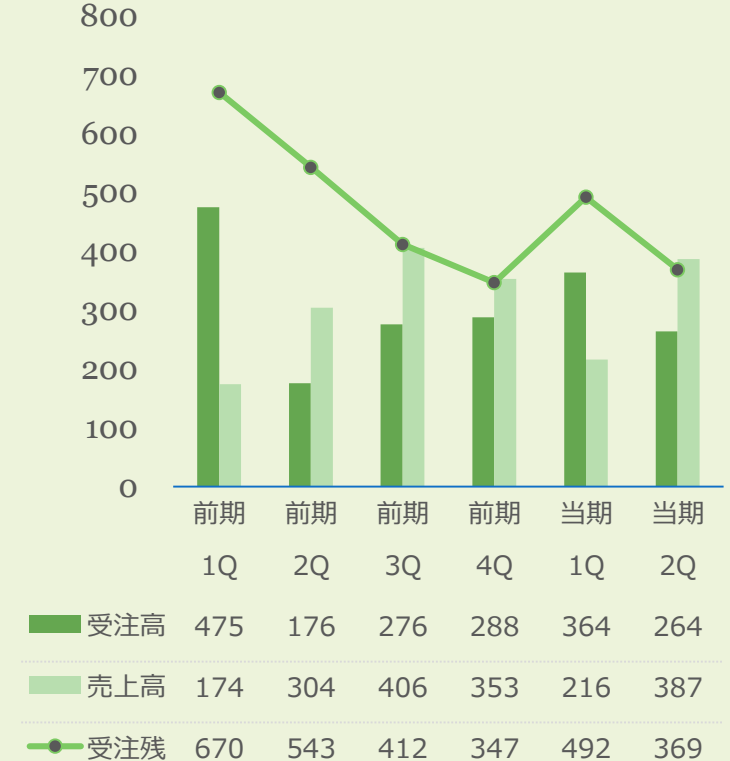
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

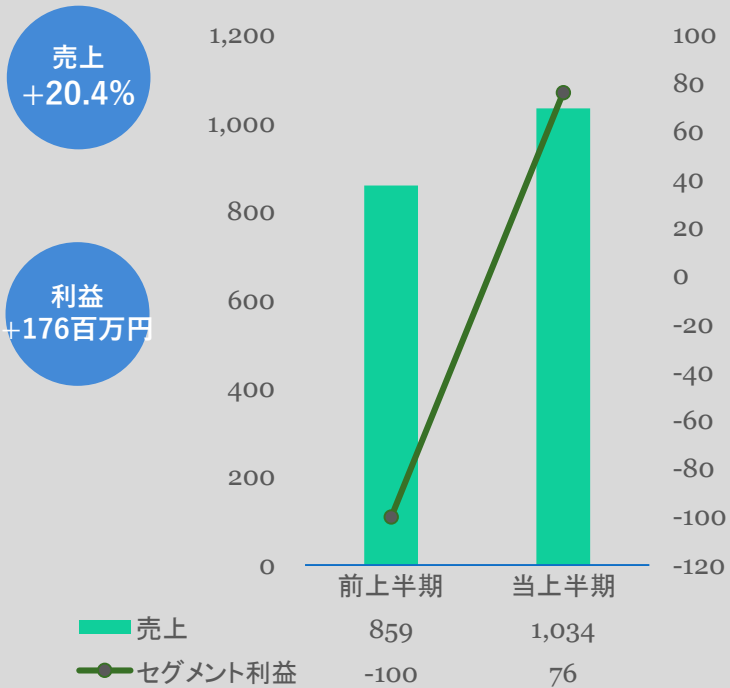
単位：百万円

単位：百万円

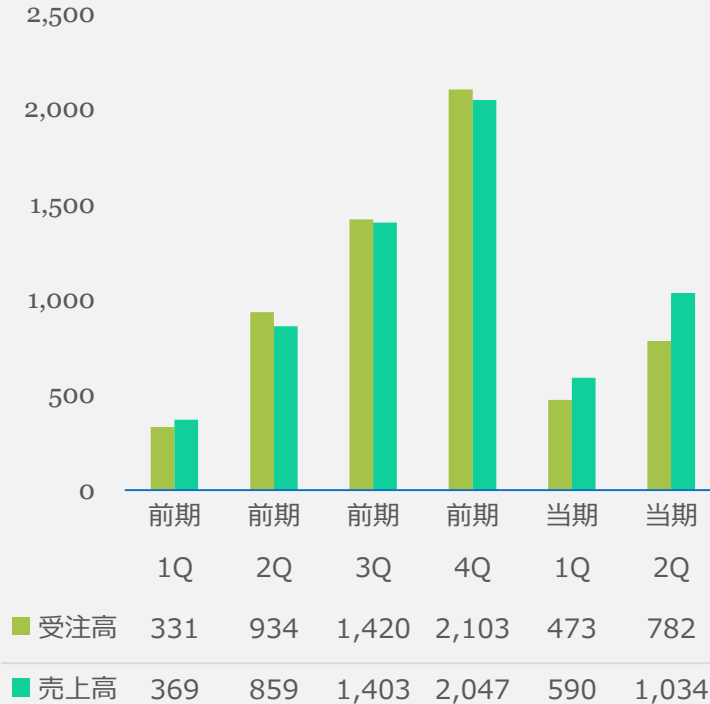
### ③ インダストリー4.0推進事業

- 精密除振装置の販売先である海外液晶パネルメーカーの設備投資意欲は落ち着いた状態となり売上高は低調に推移した
- 歯車試験機については、積極的に国内外の展示会へ参加し新たな顧客やニーズの獲得に努めた

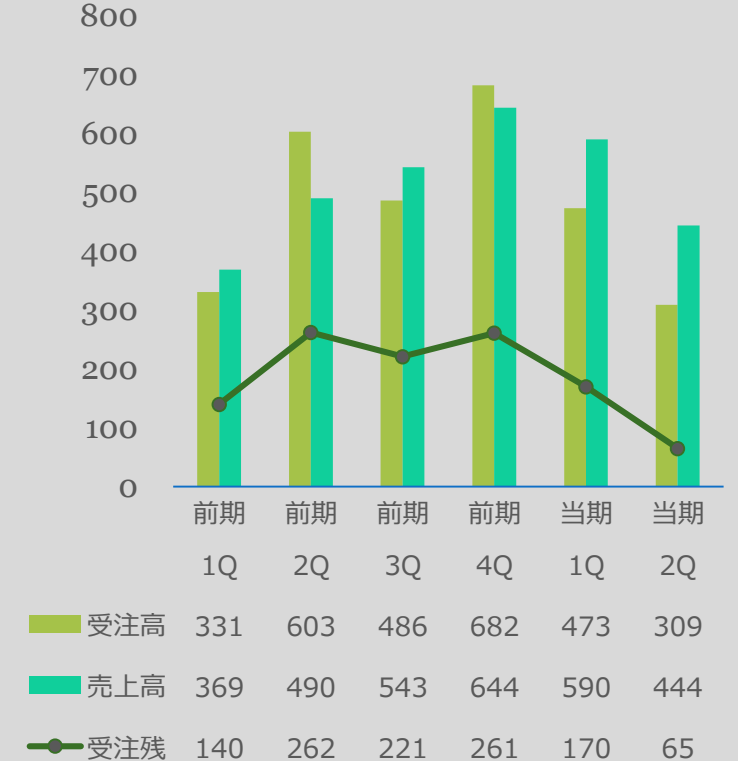
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

単位：百万円

単位：百万円

## ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

### 連結貸借対照表

(百万円)	平成30年 平成31年		平成30年 平成31年	
	5月期	第2四半期	5月期	第2四半期
<b>資産</b>			<b>負債</b>	
資産 計	6,573	<b>7,123</b>	負債 計	2,891 <b>2,931</b>
流動資産	5,238	<b>5,718</b>	流動負債	1,871 <b>2,046</b>
固定資産	1,335	<b>1,405</b>	固定負債	1,019 <b>885</b>
有形固定資産	635	<b>690</b>		
無形固定資産	475	<b>445</b>	<b>純資産</b>	
投資・その他の資産	224	<b>269</b>	純資産 計	3,682 <b>4,192</b>
			株主資本	3,668 <b>4,191</b>
			資本金	610 <b>610</b>
			資本剰余金	1,570 <b>1,570</b>
			利益剰余金	1,804 <b>2,238</b>
			自己株式	△317 <b>△228</b>
			その他の包括利益累計額	14 <b>0</b>
資産 合計	<u>6,573</u>	<u><b>7,123</b></u>	負債・純資産合計	<u>6,573</u> <u><b>7,123</b></u>

### 連結損益計算書

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
<b>実績</b>		
売上高	2,592	<b>3,834</b>
売上原価	1,439	<b>2,011</b>
売上総利益	1,152	<b>1,822</b>
販売費及び一般管理費(注)	827	<b>958</b>
営業利益	325	<b>863</b>
経常利益	319	<b>843</b>
特別利益	-	<b>0</b>
特別損失	1	<b>3</b>
税金等調整前四半期純利益	317	<b>839</b>
法人税、住民税及び事業税	154	<b>309</b>
法人税等調整額	△5	<b>△29</b>
法人税等合計	149	<b>279</b>
四半期純利益	168	<b>560</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	168	<b>560</b>

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	42	<b>62</b>
のれん償却額	21	<b>26</b>

## ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

### 営業活動による キャッシュ・フロー

174百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
税金等調整前四半期純利益	317	<b>839</b>
たな卸資産の増減額	△480	△155
仕入債務の増減額	217	<b>178</b>
その他の増減額	64	△425
小計	119	<b>436</b>
法人税等の支払額等	△41	△262
営業活動によるキャッシュ・フロー	77	<b>174</b>

### 財務活動による キャッシュ・フロー

△309百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
短期及び長期の借入による純収入	241	△213
社債による純収入	280	△50
配当金の支払額	△113	△125
その他の増減額	△42	<b>78</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	365	△309

### 投資活動による キャッシュ・フロー

△107百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
有形・無形固定資産の取得による支出	△52	△100
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△426	-
保険積立金解約による収入	178	-
その他の収入・支出	△13	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△313	△107

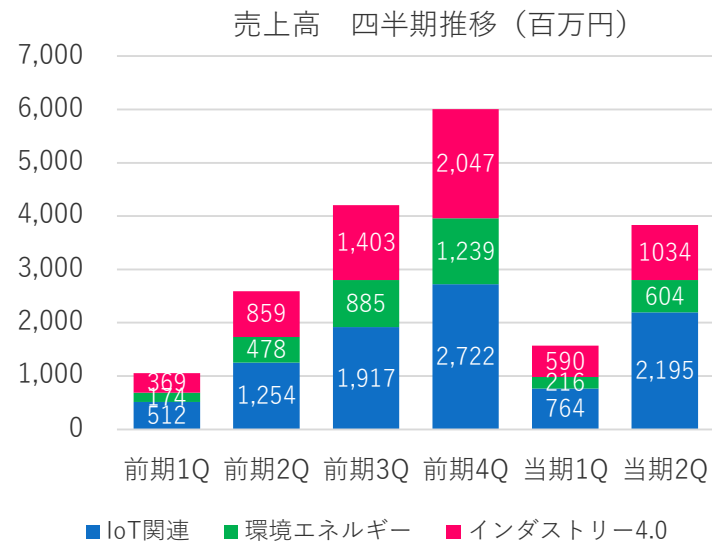
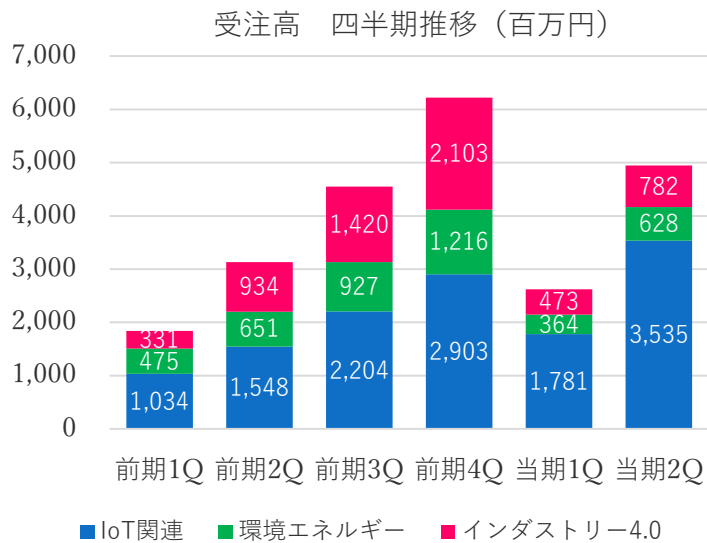
### 現金及び現金同等物の 四半期末残高

1,980百万円

(百万円)	前第2四半期	当第2四半期
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	<b>2</b>
現金及び現金同等物の増減額	124	△239
現金及び現金同等物の期首残高	1,935	<b>2,220</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,060	<b>1,980</b>

## ⑥ 受注高・売上高・受注残高

事業セグメント (百万円)	受注高		売上高		受注残高	
	当第2四半期	前年比増減率	当第2四半期	前年比増減率	当第2四半期	前年比増減率
IoT関連事業	3,535	128.3%	2,195	75.0%	1,963	168.3%
環境エネルギー事業	628	△3.6%	604	26.3%	369	△32.0%
インダストリー4.0推進事業	782	△16.2%	1,034	20.4%	65	△75.0%
合計	4,946	57.8%	3,834	47.9%	2,397	56.0%



### 3. 平成31年5月期 通期連結業績予想

### 3. 平成31年5月期 通期連結業績予想

- ▶ イメージセンサ業界は、スマートフォンカメラの複眼化によるイメージセンサ需要及び3Dセンシング向けイメージセンサ需要が高まっていくと想定し、メーカーの設備投資意欲は好調に推移すると予想
- ▶ しかし、フラットパネル・有機ELディスプレイ業界及び印刷業界の国内の設備投資は堅調に推移すると予想

(百万円)	平成30年 5月期実績	平成31年 5月期予想	前年比 増減率
売上高	6,009	<b>7,158</b>	<b>19.1%</b>
営業利益	1,006	<b>1,421</b>	<b>41.2%</b>
経常利益	988	<b>1,401</b>	<b>41.8%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	686	<b>895</b>	<b>30.4%</b>
1株当たり当期純利益	72.58円	<b>93.83円</b>	—



### 注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。





## appendix - 会社紹介 -

# 会社概要

## Company profile

商号 株式会社インターアクション  
INTER ACTION Corporation

上場市場 東京証券取引所  
市場第一部

設立 1992年6月25日

証券コード 7725

代表者 代表取締役会長兼社長 木地 英雄

事業年度 自6月1日 至5月31日

資本金 610百万円

URL <http://www.inter-action.co.jp>

従業員 151名 (2018年5月末時点 グループ全体)

グループ会社  
株式会社エア・ガシズ・テクノス  
明立精機株式会社  
株式会社東京テクニカル  
西安朝陽光伏科技有限公司  
陝西朝陽益同精密設備有限公司  
MEIRITZ KOREA CO.,LTD  
Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp.

本社所在地 神奈川県横浜市金沢区福浦1-1  
横浜金沢ハイテクセンター14階  
TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371

事業所 横浜市中区・千葉市中央区・熊本県合志市

# 経営方針

Strategy

---

重要指標

Equity Spread  
ROE  
WACC

---

配当方針

総還元性向30%

---

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること  
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること  
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

## メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

[http://www.inter-action.co.jp/ir/ir\\_mail/](http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/)

もしくは下記QRコードよりご登録下さい

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみに使用します。  
個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております  
「個人情報保護方針」をご参照下さい

<http://www.inter-action.co.jp/privacy/>



## お問い合わせ

株式会社インターアクション  
経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14F  
TEL : 045-788-8373 FAX : 045-788-8371

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい



# 中期事業計画 2021

株式会社インターアクション



クライアントファーストをモットーに、  
光学技術を用いて社会の中で価値を創造する



イメージセンサ  
市場

光学技術

FA画像処理  
関連市場

レーザー加工機  
市場

1992年の創業以来、当社は「クライアントファースト」（顧客最優先主義）をモットーとして、お客様のニーズにきめ細やかに応える製品作りを心がけてまいりました。

そして、いままで様々なニーズにお応えしていく中で、当社は多くの技術ノウハウを獲得し、製品開発に応用しております。

当社グループでは、継続的に事業を成長させるべく、中期事業計画を新たに策定いたしました。

当社のコア技術である光学技術を生かし、新たに「FA画像処理関連市場」「レーザー加工機市場」への展開に挑戦してまいります。

『光学技術といえばインターアクション』

世界中からそう呼ばれるような企業へ成長できるよう、ステークホルダーの皆様と共に、社会で価値を創造してまいります。



近年、スマートフォンカメラやデジタルカメラの普及とともに、写真カメラのイメージセンサは私たちの生活に身近な存在となりました。

そして、これからは目に見える光だけではなく、「見えない光」を捉えることで、さらに用途が広がっていくと考えられます。

特に自動運転技術や医療機器、セキュリティ等の分野においては、必要不可欠な技術として需要が高まっていくと想定されます。

当社グループの光源装置や瞳モジュールは、イメージセンサの品質を支え、ともに発展していくパートナーとして、社会に貢献してまいります。



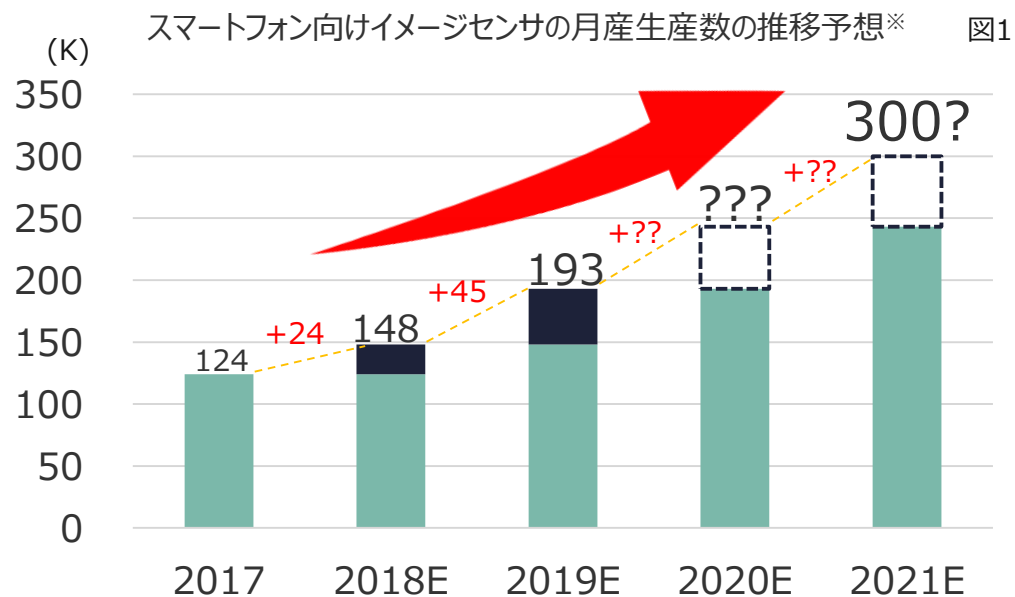
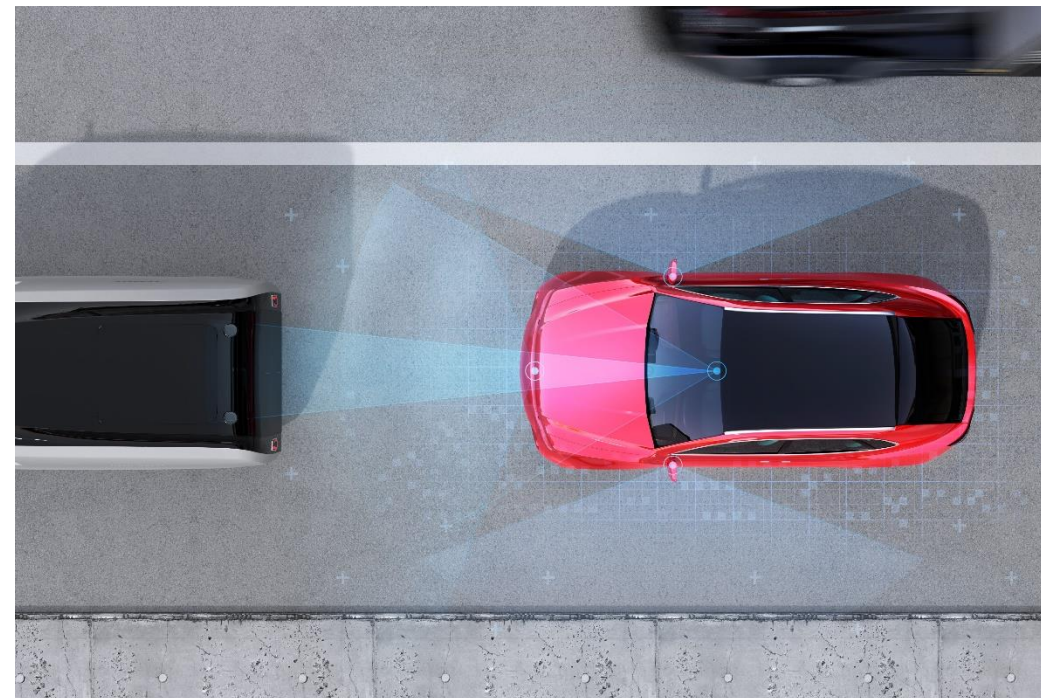
# CMOSイメージセンサ市場の拡大

## 【短期的な要因】

- ①スマートフォンカメラの複眼化によるイメージセンサの需要の拡大 (図1)
  - 3年以内に現在のスマートフォンの約50%がデュアル(2眼)カメラ搭載モデルになる予想あり
  - トリプルカメラ以上を搭載したモデルも発売され始めている
- ②3Dセンシング向けイメージセンサの需要の拡大

## 【中長期的な要因】

- ①車載カメラの普及
  - 自動運転技術の発展に不可欠
- ②監視カメラ、医療、ロボティクス等
  - 不確定要素は多いが、画像解析のコア技術として必要性が高まると予想



※各主要メーカーの予想を合計して算出

月生産数の増加に伴い、メーカーの設備投資意欲は高まっています。車載カメラ向けイメージセンサ等の需要によっては、今後さらに月生産数は増加することが考えられます。

↓

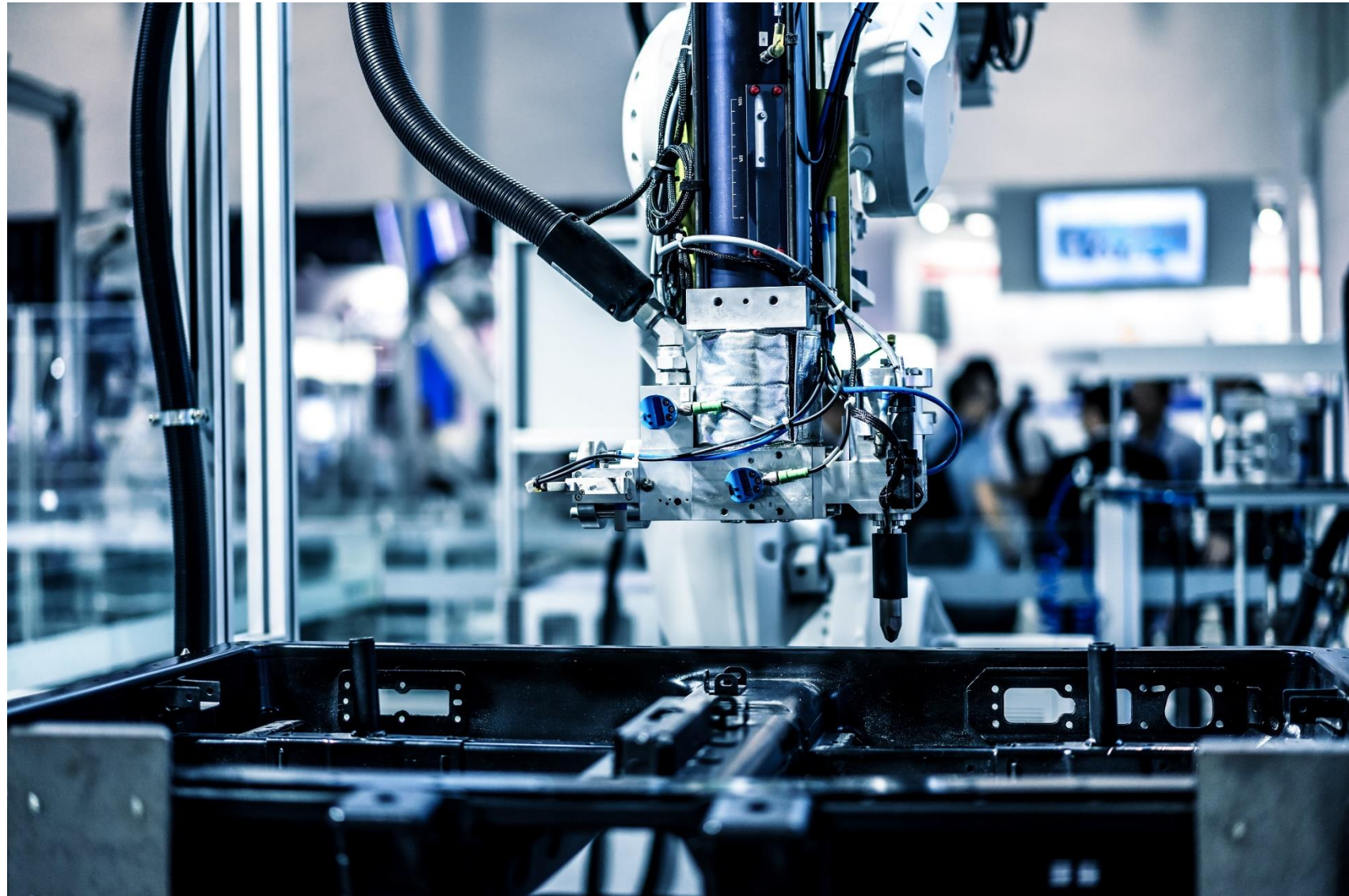
これにより、当社グループ製品の需要も高まっていくと予想しております。これらの需要を取り込みつつ、車載カメラ等の新しい分野に向けた開発を並行して行ってまいります。



国内の製造業のうち99%を占める中小企業では人材不足が進んでおり、ロボットやIT等の活用による生産工程の自動化（Factory Automation ; FA）が注目を集めています。

その中でも、FA向けの画像処理システム（カメラ検査）においては、検査内容に応じて撮像の設定、画像処理内容などが異なり、顧客ニーズに応じた複合的な技術が求められます。

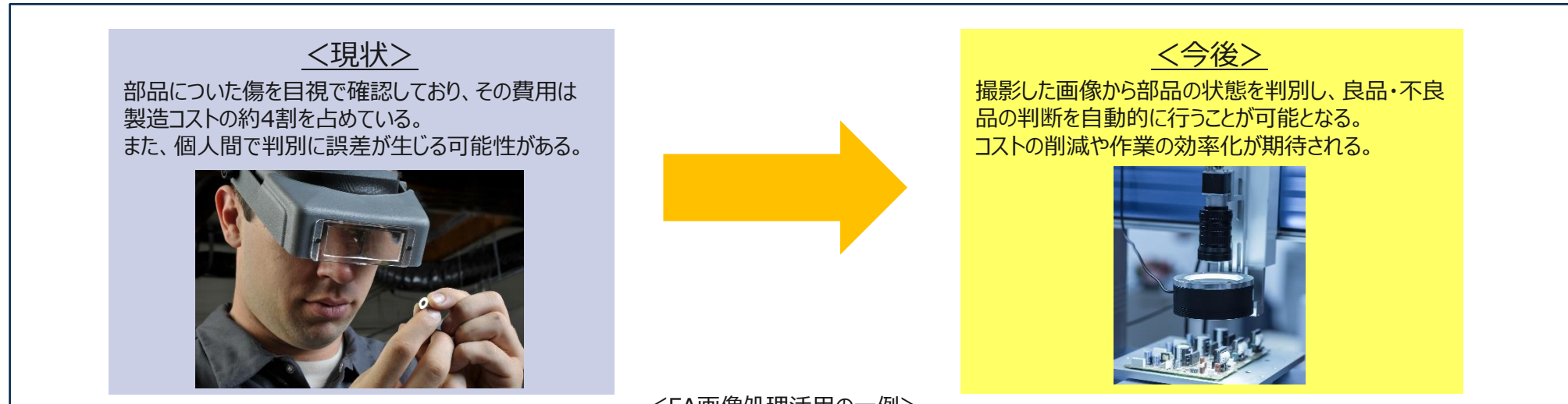
当社グループの光の制御技術を積極的に活用することで、当該分野において技術的な強みを十分に発揮できると想定しています。



# FA画像処理関連市場と当社グループ技術のシナジー

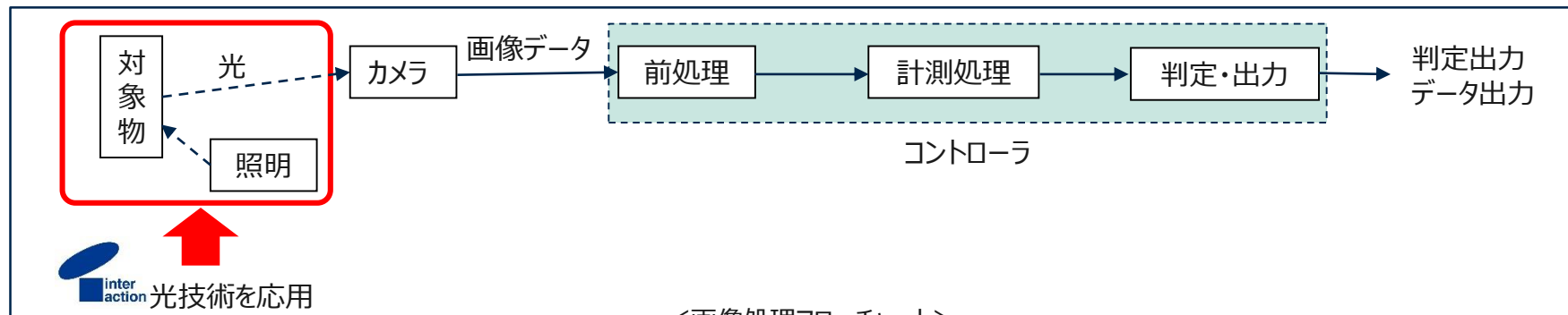
## 【市場の状況】

FA画像処理システム関連の世界市場は、FA及びセンシングニーズの増加を背景に、2016年から急激に拡大し始めています。今後数年間は**年率10%程度拡大**し、**2020年には1兆6,210億円規模**になると予想されています。



## 【当社グループ技術とのシナジー】

FA画像処理においては、対象物の状態や撮像要件に応じて、それぞれの画像処理用途に適したライティング技術が必須となります。当社グループの強みである「光（照明）の照射をコントロールする技術」は、十分なシナジー効果を発揮することが可能と考えております。







レーザー加工は、素材に直接触れることなく様々な加工を施す技術です。複雑で繊細な加工や素材への影響を最小限に抑えた加工が可能であり、様々な産業分野において基盤技術として利用されています。

今後さらなる性能の向上が期待されており、市場は拡大していくと想定されます。

当技術に必要不可欠な光学系の分野では、当社グループ技術を十分活かすことが可能と考えており、当社グループの今後の成長に大きく貢献するものと想定しております。



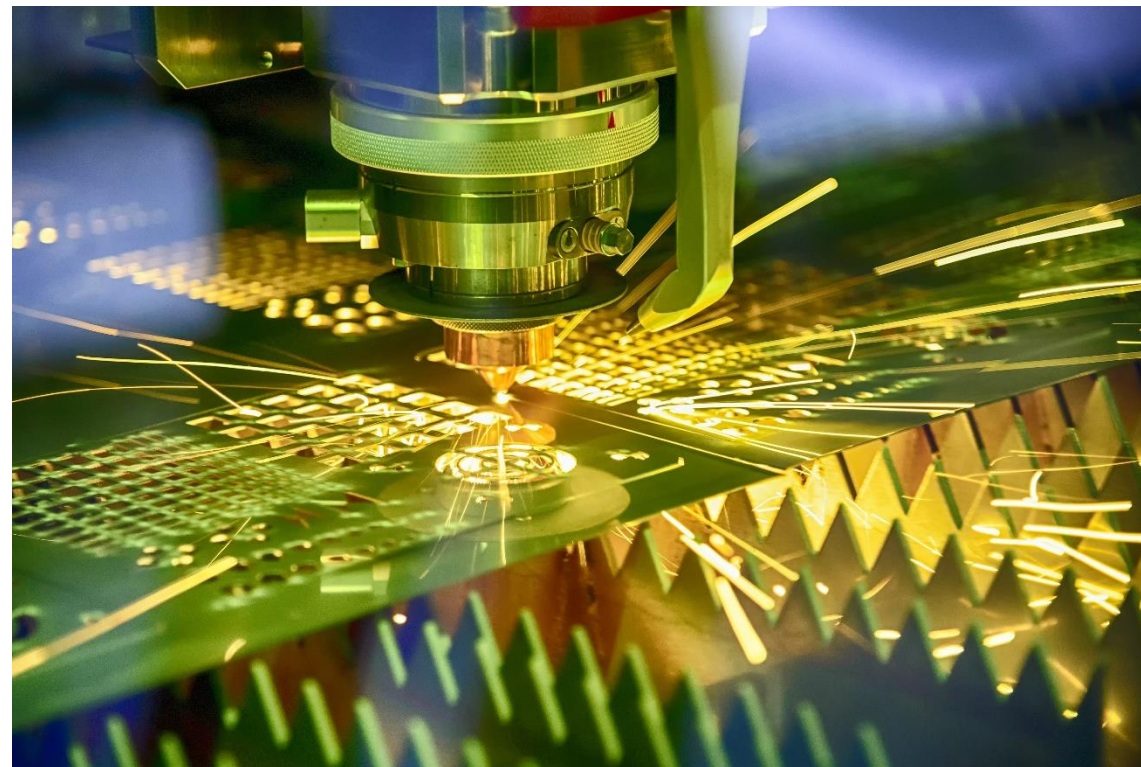
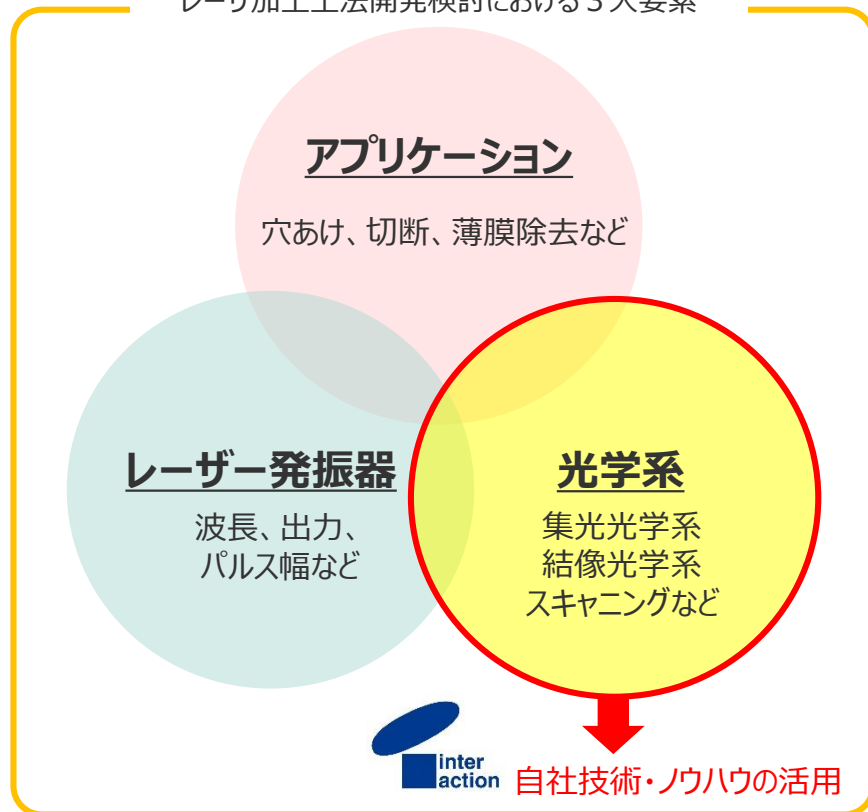
## 【市場の状況】

レーザー光源・発振器の市場規模は、2015年の5,591億円に対し、**2020年には8,070億円規模**になると予想されており、その後も**年平均成長率7%で推移**すると言われています。また、今まで主流となっていたCO2レーザーからファイバーレーザーへの切り替えが顕著になりつつあります。

## 【レーザー加工機の要素と当社グループの技術シナジー】

レーザー加工機においては、「レーザー発振器」「光学系技術」「アプリケーション」の3つの要素を踏まえ、顧客ニーズに合わせた加工機の開発・製造が求められます。特に近年、材料加工分野において切り替えが進んでいるファイバーレーザーは高い成長性が見込まれており、光学系の技術は当社技術のノウハウを活かすことが可能と考えています。

レーザー加工工法開発検討における3大要素



市場の変動性や新たな分野への挑戦する状況を踏まえ、直近の通期決算から3年後の目標値を設定いたしました。  
2021年5月期には、大きく成長したインターアクショングループの姿をお見せできるよう、役員及び従業員一丸となって努力してまいります。

	2018年5月期実績	2021年5月期目標
ROE	18.7%	<b>20%以上</b>
売上高	60億円	<b>100億円以上</b>
営業利益率	16.7%	<b>20%以上</b>

重要指標	Equity Spread ROE WACC
配当方針	総還元性向30%
M&A方針	成長分野・今後成長を見込める分野であること 培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること 5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation
設立	1992年6月25日
代表者	代表取締役会長兼社長 木地 英雄
資本金	6.1億円
従業員	151名 (2018年5月末時点 グループ全体)
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371
URL	<a href="http://www.inter-action.co.jp">http://www.inter-action.co.jp</a>

グループ会社	株式会社エア・ガズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西朝陽益同精密設備有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp.
--------	--

株式会社インターアクション  
経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市金沢区福浦 1 - 1 横浜金沢ハイテクセンター 1 4 F  
TEL : 045-788-8373 FAX : 045-788-8371

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

(HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい)







### 注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。



質疑応答（抜粋）

---

**質問 1：** 上半期の IoT 関連事業に関して、売上高と受注高において瞳モジュールと光源装置の比率を教えてください。また、競合他社とのポジションはどのように考えているのか教えてください。

**回答 1：** IoT 関連事業につきましては、上半期の売上高は瞳モジュール約 30%、光源装置約 70%です。前期上半期においては瞳モジュール約 36%、光源装置約 64%でした。今期は設備投資がすすんでいるため、これから稼働率が上がり瞳モジュールが伸びてくると感じております。受注高に関しては売上高と同様の割合になるかと思いますが、現在精査中であります。競合とのポジショニングにおいては、お客様の 2 社購買の考え方が前提にありますので、お客様の 1 歩先をいく技術提案を行うことでトップポジションを確保できるものと考えております。

---

**質問 2：** IoT 関連事業につきまして、27 期第 1 四半期の受注高と 27 期第 2 四半期の受注高の質的な変化、お客様のトレンド等を教えてください。また、製品において C-MOS や ToF の作り方が違うかと思う。プロダクトベースで変化があるのか教えてください。

**回答 2：** トрендとしてはスマートフォンカメラのデュアル化やトリプル化、次の時代を見越した 3D センシング向けが増えてきています。お客様はスマートフォンのカメラと 3D センシングで差別化を考えていると感じております。

製品に関しては光の波長域が異なります。近赤外から長波長域に変化しております。

---

**質問 3：** 今期の通期業績予想につきまして、今期下期は前期下期と比べて減収予想となっておりますが、なにか原因があれば教えてください。また、四半期ごとに受注高等バラつきがあるのであれば教えてください。加えて、中期事業計画 2021 年において売上高 100 億円以上を目指している中で、IoT 関連事業の割合を教えてください。

**回答 3：** 今期の通期業績予想はボトムアップで作成しましたので、確実なものを積み上げて作成した数字となります。計画的な予想であり恣意的な予想はしておりません。感覚としてはありますが、四半期ごとの市場の流れや勢いに変化はないと感じております。中期事業計画に関しては IoT 関連事業を主として試算しております。

---

---

**質問 4：** FA 画像処理市場への参入に関して歯車の検査での参入を考えているようですが、インターアクションの強みがどこにあるのか教えて欲しい。また、レーザー加工機分野での強みも合わせて教えてほしい

**回答 4：** 当社のグループ会社である株式会社東京テクニカルで行われている歯車計測装置は針が触れている範囲のみを計測する装置になります。外観の傷の有無は検査できず、現状は人の目で検査しております。傷を検査するためには光が必要であり、光のコントロールという分野で当社はアドバンテージがあると考えております。

レーザー加工機ではファイバーレーザーにシフトしてくると考えています。それにより、クライアントファーストに対応できるカスタマイズ能力と光学系知識が必要だと思っております。

レーザー発振器は既に欧米で開発が進んでいますが、今後はアプリケーションが出てくる時代になると想定しており、その時に重要なものはアプリケーションに沿った光学系であると考えております。それが当社の強みになるかと思っております。

---

以 上